

令和3年度(2021年度) 第2回とよなか都市創造研究所運営委員会 議事要旨

日 時 : 令和3年(2021年)10月22日(金) 18時00分～19時45分
傍聴会場 : 人権平和センター豊中3階
出席委員 : 石川委員、草郷委員、肥塚委員長、宗野副委員長、井加田委員、満島委員
事務局 : 榎本、寺田、石村、松田、比嘉、平田
傍 聴 : 1人
備 考 : 新型コロナウイルス感染防止の観点から ZOOM によるオンライン会議の形式
で実施した。

○開会

○案件(1) 令和3年度(2021年度)調査研究について(中間報告)

資料: 資料1「令和3年度(2021年度)調査研究について(中間報告)」

≫ 少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究Ⅳ

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・ 委 員 : 庁内で人口推計のデータを必要とする部局に、どのようにデータを提示するのか。
- ・ 事務局 : 基本的には、「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の人口推計値を使用するよう案内している。さらに新しいデータや小地域のデータ等の要望があれば、ビジョンの所管部局と調整しながら、基本的には庁内での利用に留めるかたちでデータを提示している。
- ・ 委 員 : 庁内からの要請により、そのつどデータをカスタマイズして提供しているのか。
- ・ 事務局 : 様々な人口推計の結果が存在するのは好ましくないため、基本的には人口ビジョンの人口推計を使用するようにしているが、相談に応じて個別にデータをカスタマイズしてお示しすることもある。
- ・ 委 員 : 外生的に与えられる変数により推計結果が変わっていくため、精緻化の手法をどのようにしていくかが重要。社人研の推計と比べ、今回の豊中市独自の人口推計は、どこに特色があるのか。
- ・ 事務局 : 全国一律のデータを使用する社人研の推計に比べ、本市の実情に合わせたデータを

使用することで、より豊中の地域性を捉えた推計が可能となると考える。

- ・委員：地域の特徴が捉えられるというメリットがある一方、特に小地域別の推計については地域単位が小さいほど外部要因が大きく影響し、推計の精度が下がるおそれがある。精緻化のレベルについてどう考えるのか念頭におき研究を進められたい。
- ・委員：将来世帯数推計に関し、世帯類型に「その他世帯」というカテゴリーがあるが、ここにはどのような世帯が入っているのか。「その他」の中には、たとえば3世代世帯など、比較的多いタイプの世帯もあるのか。
- ・事務局：「その他世帯」には、3世代世帯、兄弟姉妹のみの世帯、親族以外と同居している世帯など、さまざまな世帯が含まれる。3世代世帯の数はすでに減少傾向にあり、特に豊中市では少なくなっている。
- ・委員：単独世帯数の将来推計に関し、「39歳以下」「40～64歳」「65歳以上」というカテゴリー分けがなされている。もっと年齢を細かく見ることもできると思うが、この分け方に根拠はあるのか。
- ・事務局：カテゴリー分けを細かくするとグラフで表示する際に見えにくくなるので、今回はこの3つの年齢区分を採用した。
- ・委員：年齢区分については、年少、生産、老年など市内でのニーズが予想されるカテゴリーで分けることが適切だと考える。

≫ 「南部地域活性化推進に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：18 ページで南部地域における年齢別人口割合について、面白い結果が出ている。転出入では20～24歳が増えている理由は。
- ・事務局：南部地域では一人暮らしの若い方が多く、その人口流入が激しい。大阪市に近いので引っ越してこられる単身者が多いが、自然減が社会増を上回っている。
- ・委員：自然減が多いということは亡くなっている方が多い。若い人が入って来ているとなると、高齢化率は下がるのではないか。南部地域はいわゆる高齢化率の高い下町のイメージから変化している過程と読めるがそうではないのか。データからは、都市自体がどんどん若返りをしていると見たがどうか。

- ・事務局：データでは高齢人口割合は徐々に減ってきている。細かな要因については他のデータも分析し、若返りの傾向についてももう少し詳しく考えてみたい。
- ・委員：南部地域は開発も含めて変わろうとしている。地域が変わることで、南部地域の良さとして想定していたソーシャルキャピタルが実は失われている可能性がある。新陳代謝とか若返りが良いという一方で、シニア層中心に培われてきたソーシャルキャピタルが低くなっているところが見えるかもしれない。そうであれば、人口の動きとアンケート調査を突き合わせて、「ソーシャルキャピタルの高さが南部地域の良さ」という結論の想定を、南部の良しの維持が不安定になっている状況であるということ的前提を組み立てると、「良さを維持しつつの南部地域」のような政策提言ができると思う。
- ・委員長：17 ページの地域別人口を見ると、7 年間で南部だけが人口減で 2 千人減っている。転入は、平成 28 年～令和 2 年の 5 年間で 20 代だけが千数百人入っている。つまり南部は自然減が相当進んでいる。通常はどここの地域も転出も転入も釣り合っていて、転入が多いところは転出も多い。にもかかわらず南部は転入増になっている。かなり目立った特徴なので、分析した方がよい。
 老年人口比率がわずか 5 年で 30.8 から 33.2 になるのはかなりのテンポで高齢化、高齢化が進んでいて、その後なぜか下がっている。理由は研究所でいろいろな角度から見られた方がよい。
- ・委員：19 ページ「豊中市における地域のイメージと人との関わりについてアンケート」の分類について、「幸福度・満足度」は「社会関係について」のカテゴリーに入っている。「幸福度・満足度」は 2 問あって、いずれも主観的なくらしの評価だが、おそらく社会関係も影響するだろうし、それ以外のファクターも当然影響を抱えている。「幸福度・満足度」をここに入れるのがいいのか気になった。
 2 点目は、そのページの一番下に「この他、ソーシャルキャピタルにかかわる項目等を変数とした回帰分析も取り入れ」とあるが、現段階で何かアイデアがあれば教えていただきたい。
 もう一つ、アンケートの中で地域についての自由記述があるが、この自由記述とヒアリングをデータとどう扱われるのか。
- ・事務局：「幸福度・満足度」は、普段の人との関わりにおける「幸福度・満足度」を社会関係や日々のくらしについて尋ねたうえで訊いてみたいと考えた。2 点目の回帰分析については、ソーシャルキャピタルを従属変数として何か分析ができればと考えている。
 第 3 の点について、自由記述あるいはヒアリングの回答は、アンケートに入りきらないものを補足する形で考えている。
- ・委員：1 点目と 2 点目の組み合わせのコメントになるが、やはり「幸福度・満足度」はこ

の場所にあるのは違和感がある。「地域について」②のカテゴリの中に「愛着度」「満足度」があるので、ソーシャルキャピタルから外した方がいい。どちらかにカテゴリズされたい。

- ・委員：回帰分析については、主観的に評価されているものが果たして南部地域の様々な要因によってどう規定されるかの分析があればいい。そういう意味で「幸福度・満足度」が従属変数という分析は面白い。もちろんソーシャルキャピタルが何によって影響されるかということも重要。
自由記述をアンケートの補完ではなく、それぞれのデータを生かして最終的に考察する形で生かした方がいい。

- ・委員長：3点とも今のコメントはぜひ生かして、今後進められたい。

≫「豊中市のアンケート調査の活用に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：図表3のところで全体で107件、いろんな部局がアンケート調査をされたという説明だったが、データの共有状況は。全く共有されていないのか。少しでもデータを共有されているのか。
- ・事務局：今の時点で各部署がデータを共有しているかということ、そういったことはできていない。
- ・委員：例えば福祉部は福祉部でデータを所有して、その情報共有はほかの部署にはないということか。今後はデータをしっかり共有していくというのがベストだが、そういう考えという理解でいいか。
- ・事務局：そのとおり。
- ・委員：政策に関するアンケートでは、その政策に関する項目を訊くことになるので互いにデータを共有して使うのは難しいが、そこはこれから内容を精査し、できるだけ効率的にできるようにされたい。さらに、どうすれば各部局が効率的にそのデータにアクセスし、そのデータを使うことができるかということまで検討されたい。他市でも大きな問題になっている。
- ・委員：図表8の下の方にまとめがあるが、住民登録に来た人への調査というのは、来た人についてにやってもらっているということでもいいのか。

- ・事務局：来た人に QR コードでアンケートを読み取ってもらってスマートフォンで回答できるアンケートの例を書かせていただいた。
- ・委員：「ついでに答えられる」という仕組みはいいと思う。選挙でも、投票場に何かのついでに行くという仕組みがあるといいと思っていた。そういう工夫はいい。
- ・委員：情報共有、相互参照の仕組みがあるといい。ただ、その仕組みをどう作るか非常に難しい。それを維持して、仕組みの運用を続けていくのも難しい。行ったアンケートの内容やその結果から読み取れた含意、アンケートのエッセンスなど、いろんな部署につなげる結節点のようなものがあるといい。ただ、それをどこが担うのかということも、大変難しい。研究所がその役割を担う可能性はある。庁内でもおそらくそういったことは期待されている。それは研究所の情報収集、データ整理・加工する能力を構築していくことにもつながる。そういったことも検討されたい。
- ・委員：今後の調査の方向性で優良事例を調査される予定だが、優良事例というのは豊中市役所の中での取組みか、他市の取組みも含めてということか。
- ・事務局：今のところ豊中市の庁内での取り組みと考えている。
- ・委員：それならば、どの基準で「優良」「不良」を判断されるのか気になった。そこをしっかりと整理し、注意して事例選定されたい。
- ・委員長：さまざまな意見・助言をいただいた。今日は中間報告ということで、これからの最終報告の作成に向けてそれぞれ参考にされたい。

○案件（２）令和３年度（2021年度）機関誌について（中間報告）

資料：資料３「令和３年度（2021年度）機関誌について（中間報告）」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員長：順調に進めていかれている。編集アドバイザーを石川委員がされていて現在進行形である。石川委員、引き続きよろしくお願いします。

○案件（３）令和３年度（2021年度）とよなか地域創生塾について（中間報告）

資料：資料４「令和３年度（2021年度）とよなか地域創生塾について（中間報告）」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員長：これも順調に進んでいる。これは「リアル」「オンライン」はどのような形で進んでい

るのか。

- ・事務局：原則「リアル」の形で進めている。資料の方にも記載している。

○案件（４）令和４年度（２０２２年度）事業計画について

資料：資料５「令和４年度（２０２２年度）事業計画について」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員長：研究テーマは、今回は中間的な形でこういう表現になっているが、留意点などコメントをいただければ。
- ・委員長：「孤独・孤立」はわかりやすいが、「社会的処方」は少し整理が必要。健康データのうちレセプトデータなどの多面的分析は専門家以外できない。健康データの多面的分析は政策課題としてやっていくことは重要な課題。そういう連携を自治体がされていくこと自身、また価値がある。
医療は都道府県が管轄をしているので、医療政策は基本的に都道府県の役割。基礎自治体は関わってこなかったが、5,6年前から関東などいくつかの先進的な基礎自治体が医療政策に取り組み始めている。研究所としても取り組む価値がある。
- ・委員：研究所としてこれから健康データの利活用の仕組みづくりを、継続的に続けるのか。それとも差し当たり単年度のものとして考えているのか
- ・事務局：今のところは単年度ということで考えている。健康データの研究は初めてなので、具体的な課題というものを1年目に明らかにして、そこから次のステップにつながると考えている。目標は「まずはやってみる」というところだが、次の目標は「仕組みにつなげる」ように研究に臨みたい。
- ・委員：今の話はマクロ的に聞こえるが、地域で活動していると、どうしてもミクロのところが抜け落ちる。行政のセーフティネットにかからず相談もできないというのが、現実問題、社会課題の底辺としてある。確かに健康データというのは、一定数は支援することはできるが、そこから漏れてくる方をどう拾っていくか。提案だが、民間企業のヒアリング、地域で活動されている方のヒアリングも入れたらいいのではないか。都市創造研究所は実態を明らかにする組織なので、より具体的に、いわゆる行政の手の届かない方の実態というものを明らかにできれば、すごいデータになるのではないか。
- ・事務局：ご指摘のとおり。今回の「社会的処方」の研究は、そういった行政が救えないところを、いろいろな医療や民間事業者も含めていかに掬い上げていくのかという考え

方なので、民間の企業にヒアリングするという事も検討して研究していきたい。

- ・委員：小テーマ案が3つ並んでいるが、その中の最初の2つ、「社会的処方」と「孤独・孤立」はどちらも密接にかかわっている。それぞれがどう関係し合っているのか見えるように調査を進められたい。「社会的処方」は、「個」ではなく「地域」や「社会」で問題に取り組んでいく体制をしっかりとろうということ。それをソフトの部分でつなげていくことができるかがカギだろう。その中で特に問題意識を強く持ちうる課題が「孤独」であり「孤立」である。その接点があるところを大テーマに絡めてしっかり書かれると、この2つの意味がよく見えてくる。この2つの研究の結果、それぞれの考察がどう組み合わせられるのかというところに持っていけるような形で仕立てられたい。

「孤独・孤立」そして「ネットワーク」については、私は豊中市社協の取組みが頭に浮かんでくる。勝部さんをはじめとして素晴らしい取組みをされている。ちょっと切り口は違うかもしれないが、既にそういう取組みをされているまちなので、こういう調査する場合に、どういうところに注意した方がいいのかヒアリングされるというアイデアが生まれてくるのではないかな。

- ・事務局：重要なご指摘いただいた。特に最後のヒアリングを織り交ぜるといふご意見は具体的に進めていきたい。各研究のつながりというところも、次回は説明できるようにしたい。
- ・委員長：「社会的処方」では、「地域共生社会」というコンセプトの中で地域資源、医療・福祉その他の社会資源ネットワークなど課題が山のようにある。その中で、「医療」以外の「社会的処方」をどういう風にしていくのか。「方法論の標準化」「活動評価」など、1個1個が大変重い言葉がたくさん並んでいる。本当にこれを全部1年間でするのか確認しておく必要がある。これは1年間の研究か。2年くらいかけるのか。
- ・事務局：1年間の研究。今回例示という形で皆さんの意見をいただきながらと考えていた。
- ・委員長：「社会的処方」はいろんなことを整理するだけでかなりかかる。たぶん1年では無理だろう。まずは1回やってみるといふことだが、折角「健康と都市政策」を大テーマに立てられるのであれば、さらに深めて繋げていくということが大変重要。「健康格差社会」は、社会的な状況が悪いから「健康格差」を生み出す一方、健康状態が良くないことが所得に関係し、様々な社会的な状態を生み出すという、両方の関係がある。そういうことを見ていくと、「健康と都市政策」というテーマは。角度としては非常にいい。令和4年度は、ぜひこの大テーマを深めるきっかけにされたい。

○案件（5）その他

- ・事務局：次回、第3回に会議については2月の中旬ごろを予定しています。
- ・委員長：それでは以上で本日予定しておりました案件はすべて終了です。これで令和3年度第2回のとよなか都市創造研究所運営委員会を終了します。ありがとうございました。

○閉会